

安徽省合肥市視察レポート

国際委員会委員長 廣田 豊

視察目的と今回の視察先

現地企業や大学などを訪問することで、その国の特徴や将来性を学び、海外展開の推進や海外ビジネスプランに役立てるものとする。

今回の視察は、AIを国際的な新しい競争分野と位置付け、官民挙げて”AI強国”を目指している中国において、トップレベルの人工知能分野を専門とする国家級産業基地とされている合肥ハイテク区サウンドバレー(中国声谷)の視察を中心に現地ソフトウェア産業企業、安徽省ソフトウェア協会、現地大学、日系企業を訪問した。

11/20

キックオフミーティング

みずほ銀行支店長からの合肥紹介～現地協会、企業とのウェルカムディナー
安徽省合肥市関係(安徽省軟件協会、合肥市高新区管理委員会、中国科学技術大学、iFLYTEK、科大国創軟件股份有



限公司)
合肥日商俱樂部(合肥信濃馬達有限公司/シナノケンシ、合肥大久保機械有限公司、みずほ銀行(中国)有限公司合肥支店、淀川盛餘(合肥)高科技鋼板有限公司)

11/21

合肥市ハイテク産業区サウンドバレー視察

iFLYTEK社訪問視察

iFLYTEK社は音声認識に特化した会社。音声の入力と出力に於いて非常に高い技術を有しており、専用機で同時通訳

ができる。実際にミーティングで使用を試みたが、簡単な日本語でしか使用できなかった。各国の言語に対応しているらしく、デモでは英語や中国語は非常に早く聞き取っていた。

ショールームでのデモは非常に洗練されており、完成度が高い。かなり本格的であり、本物の技術集団であることが理解できるデモであった。(中国の音声認識市場でシェア80%を誇る)



合肥市ハイテク産業区管理委員会訪問

- 合肥のハイテク開発区は中国全体169区の中でトップ10に入る。(基準はGDP、発展スピード、特許申請、人財、上場企業、国際競争力など)
- 200社近い人工知能企業がハイテク産業区に拠点を構えている。
- 量子コンピューターやハイパーソニック・テクノロジーの研究開発なども行わ



合肥市ハイテク産業区管理委員会にて

れており、中国が科学技術立国になるために合肥はなくてはならない存在として認知されている。

- 優遇制度も多く、合肥への投資は中国で3位との事また、大学や研究所も多い。

安徽省ソフトウェア協会

安徽省ソフトウェア協会とJASAの紹介、肥企業とJASA会員企業による事例紹介。

合肥企業

- 和信科技(国営企業が出資した会社)

画像認識を用いたAIについて紹介された。

- 科大創軟股份有限公司

合肥最大規模のソフトウェア開発企業。主に企業向けアプリケーション開発。

JASA企業

- メタテクノ株式会社
- TDIプロダクトソリューション



11/22

中国科学技術大学 訪問

- 中国科学院(ハイテク総合研究と自然科学の最高研究機関)によって設立された国立大学
- 2017年World QS World Ranking TOP100にいつも入る、中国大学偏差値ランキング6位
- 総学生数は16,000人以上、卒業生が海外留学する比率は国内トップ
- 教室やサーバルーム、研究室などを見学

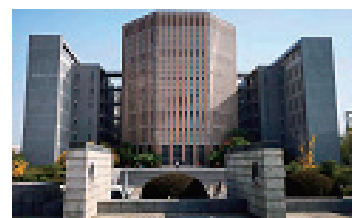


安徽大学 訪問

- 1946年に国立安徽大学となり、1958年、合肥大学と合併し現在の「安徽大学」となった。
- 国家「211プロジェクト」に選出された重点大学
- 非常に敷地が広く、一つの街と言えるほどの規模で、大規模な寮もあり生活拠点にもなっている。

土地:2.2平方キロメートル(蕪市の半分弱)、校舎:1.2平方キロメートル

- 学生数はおよそ3万7千人で留学生は400人弱。
- 学生より研究成果(人の動作でプロジェクターなどのページ送り等)を紹介された。
- 大学内では起業もしており、学生にとって必要な情報をほぼアクセスできるシステムを開発、運営している企業もあった。
- 学内は雰囲気が明るく、学生が生き生きとしていたのが印象的であった。



合肥信濃馬達有限公司 訪問

- 完成品モーターの全てを製造しており、金型から軸の加工、ワイヤー巻、電子基板実装、組立まで全てこの工場内で行っている。

設備は自作の物も多く、製造自体はほぼ機械で作られており、ラインは日本同様だが、妙に人が多くみられる。

良く見ると、工程～工程に多くの人が介入しており単純作業員が多く、自動化されていない。





合肥信濃馬達有限公司にて

この辺は課題のようだが人件費はコストの10%程度であり問題にはなっていない。採用や退職対策は大変のようで、様々な施策(表彰、インセンティブなど)を行っている。

今回視察の感想

合肥のITについて

今回視察させて頂いた、iFLYTEKなどはやはり本物の技術集団であり、真似だけではない中国の技術力を見ることができた。

このような技術力の高い企業は実態としては少数で、全体のレベルはまだまだ低いようだが、今後増加するのは間違いのないと思われる。インフラ系通信機器などはシェアに於いて、日本を追い越したが、ITについてもかなり危機感を感じる視察となった。

参加者からのフィードバックと今後の課題

視察ツアー参加者アンケートでは、訪問先や委員の対応、宿泊先や食事など、12

項目のアンケートに対し、ほぼ満足以上を頂きました。また、内容の密度に対してコストが抑えられていたことにも好評価を頂きました。実際に現地を視察することで、イメージとの違いを知ることが出来たなど、有意義であったとのコメントを頂いております。

中国で急激に発展している地域を視察することで、イメージの変化や特長、将来性など十分感じることができ、その意味では目的を達成できたと思います。ただ、管理委員会やソフトウェア協会での視察やイベントでは、海外展開の推進や海外ビジネスプランを立てるという意味で不十分であったと感じます。

これらは今後の課題として取り組んでいきたいと思っています。

ご協力頂いた方々には大変なご尽力を頂き、誠にありがとうございました。

今後もJASA会員の皆様に満足して頂けるような海外視察ツアーを企画してまいりますので宜しくお願い致します。